

## 富山県の水質環境に係る主な課題について

### 1 富山湾の水質維持、汚濁負荷等の継続的な調査・評価

- ・ CODは、通年の評価では環境基準を 100%達成しているが、夏季を中心に基準値を超過している。

表 4-1 富山湾海域での環境基準値の達成状況（令和2年度・COD）

＜凡例＞ ×：基準値超過、△：基準値と同値、（空白）：基準値未滿

区分 類型	小矢部(甲)		小矢部(乙)		神通(甲)			神通(乙)			その他												
	B		A		B			A			A												
地点	小矢部2	小矢部3	小矢部5	小矢部6	神通1	神通2	神通3	神通4	神通5	神通6	小矢部7	神通7	その他1	その他2	その他3	その他4	その他5	その他6	その他7	その他8	その他9	その他10	
4月																							
5月								△															
6月			△	△													×	×	×	×	×		
7月			×	△				×	×	×	×	×				△	×	×	×	△	△	×	
8月			×	×				×	×	×	×	×		×	×				△				
9月																							
10月																							
11月																							
12月																							
1月																							
2月																							
3月				△																			

「環境基準 100%達成」の条件：全 22 地点において、年 12 回の調査のうち基準値超過が 3 回以下。  
 ⇒ 基準値超過が年 4 回で「未達成」のため、上表のとおり基準達成が危うい状況である。

### 2 水質汚濁事故が依然として年 40 件程度発生しており、未然防止が必要

- ・ 毎年 40 件程度発生しており、原因としては作業ミスや施設の破損が多い。

表 4-2 水質汚濁事故発生件数の推移

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
件数(件)	52	63	53	39	37	50	49	50	34	38	35

その他（交通事故、自然災害等）  
： 11 件

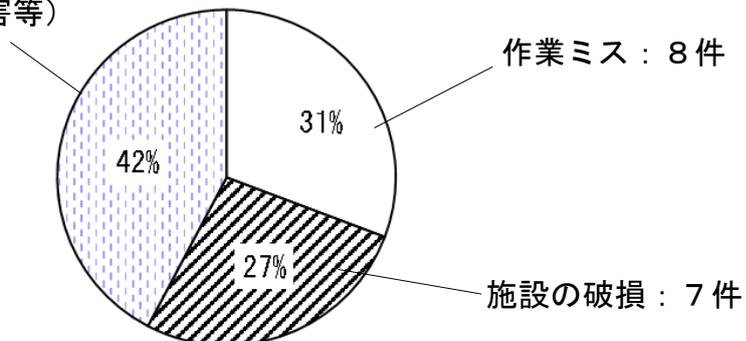


図 4-1 水質汚濁事故の原因（令和2年度、不明を除く。）

### 3 地域活性化に向けた「とやまの名水」の活用

- ・ 県SDGs未来都市計画で「水の恵みの活用による持続的な経済発展」が掲げられたことなどから、地域活性化にも資するように本県の「水」の魅力発信を強化する必要がある。
- ・ 魅力発信に当たっては、本県の豊かで清らかな水環境のシンボルである「とやまの名水」について、観光の視点等からPRを強化するなど、地域活性化に向けた活用が考えられる。

**将来ビジョン** 『環日本海地域をリードする「環境・エネルギー先端県とやま」』

- ① 世界に誇れる雄大な「立山黒部」や「世界で最も美しい富山湾」など美しい山と海を有し、豊かな水の恵みを活かして持続的な経済発展を実現する県
- ② 「富山物質循環フレームワーク」の実現に向けた「とやまモデル」が確立した県

**2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット**



図4-2 富山県SDGs未来都市計画（令和元年8月策定）

### 4 水環境保全活動の促進

- ・ 近年、活動団体数は100団体前後と横ばいであるが、活動団体の一部で高齢化や後継者不足等による活動衰退、団体解散・活動休止がみられる。
- ・ 若い世代の理解や活動参加の促進により、環境に配慮した事業活動や環境保全活動を拡大する必要がある。

### 5 その他

- ・ 常時監視の重点化・効率化  
補助点での調査、要監視項目の測定等の必要性について検討するとともに、国の動向を踏まえ、大腸菌数、底層溶存酸素量等の新たな調査項目への対応を検討する必要がある。
- ・ 水質の現状把握と対策に向けた研究の推進  
水質環境について、気候変動との関連等、現状についての知見を得るとともに、今後の対策を検討するために、調査研究を推進する必要がある。